

関西学院大学主催
秋季人権問題講演会

関学の人権教育に 期待すること ～部落問題の講義を40年間担当して

◆ 2017年12月4日(月)

● 午後3時10分～午後4時40分
場所／西宮上ヶ原キャンパス
B号館203号教室

◆ 講師／友^{とも}永^{なが}健^{けん}三^{そう}氏
(部落解放・人権研究所名誉理事)

*本講演会では手話通訳・パソコンテイクによる情報保障を予定しています。
また、録音、録画を行い図書館資料として保存しますのでご活用下さい。

■講演内容

<講演にあたっての思い>

わたしは、1976～2016年度まで、40年間、関学で開設されている部落問題に関する講義を担当してきました。この間、日本はもとより世界の人権をめぐる状況は大きく変化してきましたし、関学における部落問題をはじめとした人権問題に対する取組みも拡大してきています。

しかしながら、近年の人権をめぐる状況を直視したとき、差別や人権侵害が深刻化してきている現状がありますが、日本では、昨年「障害者差別解消法」(4月)、「ヘイトスピーチ解消法」(6月)、「部落差別解消推進法」(12月)が施行され、教育・啓発にかけられた期待は大きなものがあります。

このような歴史と現状を踏まえ、この40年間の成果と課題、関学におけるこれからの人権教育への期待を語ってみたいと思っています。

■講師紹介

1944年 大阪市に生まれる。

1969年 大阪市立大学文学部哲学科卒業。

部落解放同盟大阪府連教宣局に勤務、大阪部落解放研究所(現在の一般社団法人部落解放・人権研究所)事務局員を兼務、その後、同研究所の事務局長、理事・所長を歴任し、2009年3月退任。

1972年以降大阪市立大学(2012年3月まで)、1976年以降関西学院大学(2017年3月まで)で非常勤講師として部落問題論・人権問題論を担当。

現在、一般社団法人部落解放・人権研究所名誉理事、反差別国際運動(IMADR)顧問、公益財団法人住吉隣保事業推進協会理事長などを務める。

著書に『部落解放を考える 差別の現在と解放への探求』(2015年)など、共著に友永健三、渡辺俊雄『部落史研究からの発信 第3巻 現代編』(2009年)などがある。(いずれも解放出版社刊)

総合テーマ：

Towards the Realization
of Human Rights

— 人権保障の実現を目指して
(2015～2019年度)

